

授業科目名	地域福祉と包括的支援体制	単位数	4単位
担当教員名	砂田淳一郎、平雅夫	担当形態	複数
実務内容 (実務家教員の場合)			
「学位授与の方針」との関係			
DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる(専門知) DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自立的な課題探究能力を身につけ実践することができる(実践力)			
授業のテーマ及び到達目標			
<p>地域福祉の視点と理論を学び、地域における包括的支援体制構築のため、将来専門職として、地域福祉の担い手として必要となる制度や社会資源などを、社会福祉の実践現場で実践できるようになることを学修の到達目標とする。具体的なテーマとしては、次のことを掲げる。</p> <p>(1) 地域福祉の基本的な考え方とその推進主体について理解する。  (2) 地域福祉の発展過程とその実態について理解する。  (3) 福祉行財政のシステムについて理解する。  (4) 福祉計画の意義と種類、政策と運用について理解する。  (5) 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題について学修する。  (6) 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制と多機関協働について理解する。  (7) 災害時における総合的かつ包括的な支援体制について理解する。  (8) 地域福祉と包括的支援体制の課題と展開について学修する。</p>			
授業の概要			
<p>現代社会において、何故「地域福祉」という考え方が重要視されるようになってきたかを理解し、その背景となった事柄等を把握する。そうした上で、地域福祉の構成内容や概念の変化が起こってきた理由について時系列で理解していく。本科目では地域福祉の具体的な推進機関や人的資源、法制度などの要素が取り上げられることが多いので、そうした社会資源について実践現場の中でどのように用いられているのかを確認しながら、具体的な事業等を理解する。(学んだ内容を、自分の住んでいる街では具体的にどのように行われているのかを調べてみる)</p> <p>併せて、地域福祉を展開するうえで福祉行財政の仕組みがどのように構築されているのかを理解し、その実現のための福祉計画(行政計画を中心に)の内容や実施方法についても、理解を深める。</p>			
授業計画			
<p>第一回:ガイダンス(地域福祉を学ぶにあたって)  第二回:多様化・複雑化した地域生活課題とニーズ  第三回:地域福祉と社会的孤立  第四回:地域包括ケアシステムと包括的支援体制  第五回:生活困窮者自立支援  第六回:地域福祉がバナンスと多職種協働  第七回:地域福祉の概念・理論と歴史  第八回:地域福祉の動向  第九回:地域を基盤としたソーシャルワークの方法  第十回:住民のの主体形成に向けたアプローチ  第十一回:災害時における総合的かつ包括的な支援体制  第十二回:福祉計画の理解①  第十三回:福祉計画の理解②  第十四回:福祉行財政の理解①  第十五回:福祉行財政の理解②</p>			
スクーリングでの学修			
<p>(1) 対人的な相談援助の構成要素と展開過程を理解する  (2) 相談援助を実践するための価値、原理・原則、基本的な姿勢を理解する  (3) 相談援助の方法とくに相談面接の技法について学ぶ</p>			
テキスト			
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟=編集(2021)『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規、978-4-8058-8236-8			
参考書・参考資料等			
必要に応じて適宜紹介する。			
学生に対する評価			
スクーリング評価(25%)、レポート評価(25%)、科目修得試験(50%)			